

生活クラブ・東京では、2025年度に東京都生活協同組合連合会と東友会が開催した「被爆80年東京ピースプロジェクト」による広島・長崎ピースツアーに組合員が参加しました。その活動をきっかけに、平和学習の機会として東友会の方たちによる被爆体験を聴く会を各地域で開催してきました。被爆者の高齢化が進む中で、被爆体験の継承と核兵器廃絶に向けた世論形成が重要な課題となっています。今回、東京都生協連を通じて呼びかけのあった「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」運動の趣旨に賛同し、生活クラブ・東京としてこの署名活動に参加します。

この用紙に署名し、配達便やデポのレジに提出するか、
右の二次元コードより、WEB上での署名を行ってください。

＜署名用紙を使用する際の注意事項＞

※住所、氏名は「同上」「リ」などではなく一人ずつすべて記入してください。

※ボールペン等消えないインクの筆記具で記入してください。

提出〆切：9/25（WEBは9/30）



被爆者はみなさんに語りかけます

広島・長崎で原爆被害を受けた被爆者たちが、これまで訴えてきた言葉の一部を紹介します。核兵器について、戦争について、日本政府や核大国の姿勢について、被爆者の思いを受け止めていただければと思います。

- ◇戦争は終わりましたが、私たちにとってはそれからが、新しい人生との「戦いの始まり」となりました。都会生活から一転して慣れない田舎暮らしになったことはともかく、何もかも失ってゼロからの出発でしたから、経済的な苦労は、家族全員の人生を大きく狂わしてしまいました。「戦争」が人の命を奪うばかりではなく、生き残った人びとの人生をも大きく変えてしまうものであることを、思い知らされました。（広島被爆／女性）
- ◇核兵器禁止条約は、核兵器を作ること、持つこと、使用することを禁止しており、使用の威嚇（脅かすこと）も全面的に禁止しています。しかし、核保有国や同盟国（日本含む）はこれに参加していません。被爆者は、核兵器を禁止し、廃絶する条約を結ぶことを、全ての国に求めています。世界のどこにも、ふたたび被爆者をつくらせてはいけません。（広島被爆／男性）
- ◇原爆を投下したのはアメリカですが、戦争を始めた責任は日本にもあります。この悲劇が起きないため。核兵器のない平和な世界をつくるために日本とアメリカの両国は先頭に立つべきだと考えます。（長崎被爆／男性）
- ◇原爆は一瞬の出来事でした。しかし、その時被爆した人は、その人が亡くなるまで一生原爆から離れられません。
戦後の10年は私の10代の年月。中学の頃、昨日まで元気で仲良く遊んだ友達が突然学校を休んだので、見舞いに行くと青白い顔をして寝ていました。体のあちこちから出血し3日ぐらいで原爆症で亡くなってしまいました。周りの知人、友人が亡くなるたびに「次に死ぬのは私ではないか？」と不安な毎日でした。…… 私たちのような辛い思いを世界中の人に体験してほしい。「ふたたび被爆者をつくらないために」私たちは長年、核廃絶を訴え、運動を続けています。被爆者に与えられた命の時間は間もなく終わるでしょう。1日も早く核兵器のない世界を実現するために、核兵器廃絶を強く訴えていきたいと思っています。（長崎被爆／女性）
- ◇アメリカやロシアが身勝手に世界を振り回す動きがおさまりません。国連安全保障理事会の常任理事国である両大国のなすことであればなおさら、国連は機能を発揮できず、核大国のなすがままということになります。私たち被爆者が強く願ってきたのは、「被爆者を救うとともに人類を救う」ことです。日本政府は耳ざわりのよい「核兵器廃絶に向けて世界の世論をリードする」といった言葉を発するばかりでなく、核兵器禁止条約に真摯に向き合ってほしいと思います。

（広島被爆／男性）